

長岡技術科学大学地域防災実践研究センター 令和8年度文部科学大臣表彰受賞について



長岡技術科学大学
客員教授 吉澤厚文

地域防災実践研究センターの設立

センター開設後の状況

- 令和3年9月1日センター設置
- 9月2日 設立記念講演会を開催
 - ・新潟県内の研究・教育機関の取組を紹介
 - オンラインで県内の関係機関に配信
- 9月27日 防災ワクチン®ワークショップ開催
 - ・インフラ企業等で県内に新たに配属された人材を中心に、任地で想定される自然災害をリアルに体験、災害対応力を高める
- 10月27日 開所式を開催
 - 「安全科学推進会館」を改修し、センターが完成
 - 新潟県「防災産業クラスタープラットフォーム」**
 - 設立式と同時開催**
 - ポスターセッションで異業種間が交流
- 防災・減災に関連する研究開発を希望する企業の参画を募集中で、現在、その働きかけを実施
- 防災・減災に係るデータプラットフォーム構築に関しては、国交省、新潟県も期待を寄せている



業 績

令和8年度 科学技術賞 理解増進部門



かみむら せいじ
上村 靖司

現職
長岡技術科学大学
技学研究院
教授



よしざわ あつよし
吉澤 厚文

現職
東京電力ホールディングス(株)
フェロー
長岡技術科学大学
技術開発センター
客員教授



ぬる あでりん
NUR ADLIN
びんてい あぶ
BINTI ABU
ばかる
BAKAR

現職
長岡技術科学大学
技学研究院
助教



やまぐち たかし
山口 隆司

現職
長岡技術科学大学
技学研究院
教授



わたり たかひろ
渡利 高大

現職
長岡技術科学大学
技学研究院
准教授

本活動は、災害を「他人事」と捉え適切な避難行動に結びつかないという社会的課題を背景に、知識中心の防災から当事者意識と主体性を育む「主体」防災への転換を目指して推進されたものである。弱毒化した疑似体験により内在する対応力を引き出す防災ワクチンの概念を提唱し、それを具現化した研修手法、学習教材の開発・普及に取り組んだ。

本活動では、防災ワクチン概念を具現化する研修手法と教材を体系的に開発・展開した。具体的には、一枚の写真から災害を読み解くワークショップ手法の考案、通電火災の仕組みを体験的に学ぶ「ブレーカーキット」の開発と商品化、家庭で停電を疑似体験する「ブラックアウト大作戦」の実施などを通じ、学校・自治体・企業の産学官連携により社会実装を進めた。

本活動により、子どもから大人までが災害を自分ごととして捉え、適時・的確に行動する力が育まれるとともに、通電火災の防止や停電への備えの向上が図られ、地域のレジリエンス強化と国民の安全・安心の確保に寄与している。

地域防災実践研究センター 成果のご紹介

～防災ワクチン～

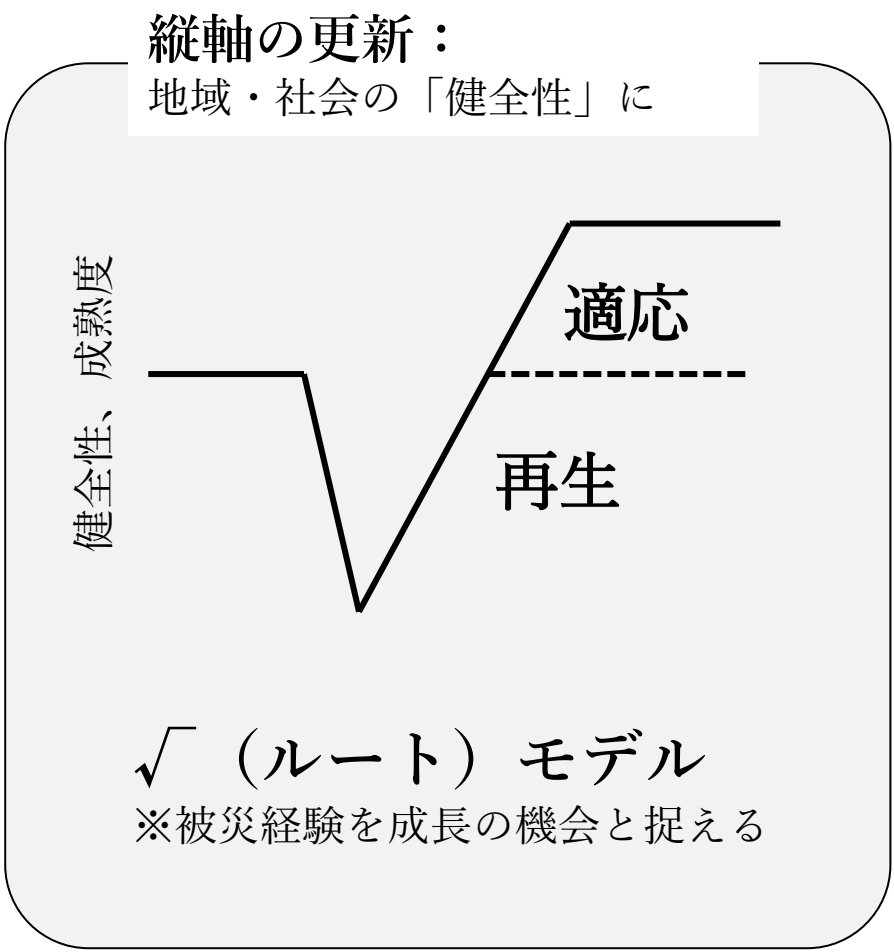
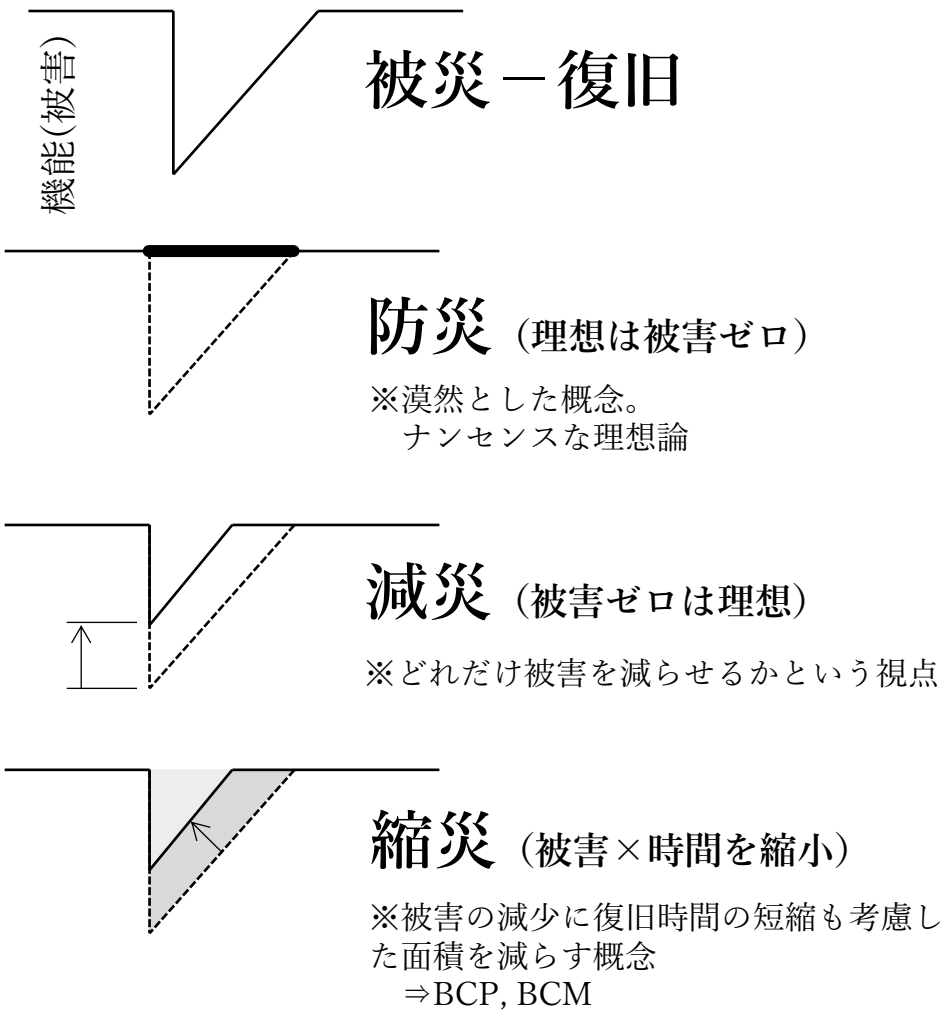
防災ワクチン®ってなに？

- 防災にもワクチンがあってもいいのではないか
 - ✓これまでの災害に対応する能力(災害対応力)を向上させる手法は、災害に対してどう対応するかの“*How to*”を伝授するものがほとんど(防災レシピ®方式)
 - ✓これでは後追いの対応は可能でも、**未曾有の災害には対応できない**(事実、我々は新型コロナウイルス対応に混乱した)
 - ✓災害が激甚化する中、地域がこういった**災害対応力を主体的に高めておく方法はないものか(地域レジリエンスの向上)**

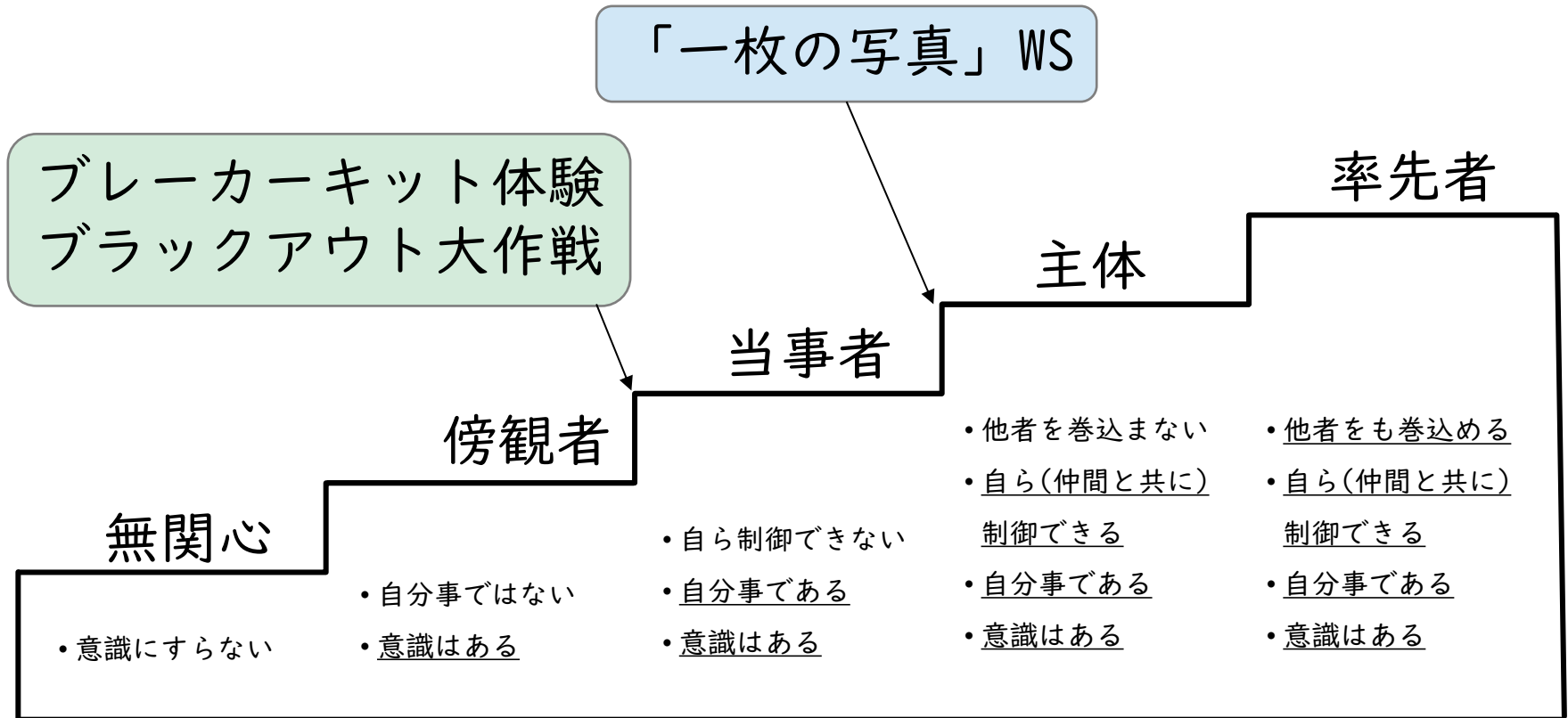
➤ 防災ワクチン®の概念

- ✓災害そのものを体験する前に、**弱毒化した災害体験**(経験、訓練、知識等)により、**地域の主体性を高め免疫力を向上する方法**
- ✓これは*How to*を伝授するものにあらず、**地域の持っている主体性を引き出すきっかけを作るもの**

基本概念と√モデル導入



主体性獲得の5段階モデル



防災ワクチンの具現化

① ブレーカーキット

- 体験型教材として、通電火災のメカニズム、災害復旧時の安全な電気の活用手法を習得するための、現物のブレーカーを用いた「ブレーカー実験キット」を開発。
- 新潟県内の小中学校で出前授業を5回実施（417名受講）し、生徒等の理解度を4割程度向上させる学習と定着の効果を定量的に検討。
- 安全な擬似実体験型教材を制作、教育ソフトと併せて地域防災訓練等で普及。



長岡市の船山株式会社が販売しています。

https://funayama.co.jp/product/pickup/breaker_kit.html

ブレーカー実験キットの開発経緯

2020

2021

2022

2023～

設備設計

効果検証

研究成果の展示

改良・産業クラスター形成期

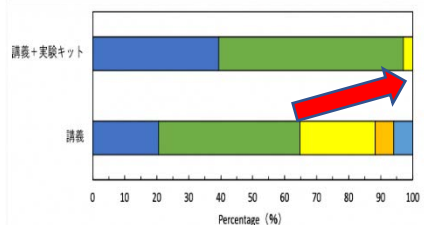
商品化

初期コンセプトを具体化
鹿児島・熊本高専と協働



出前授業用試作機作成

入手可能な部品を用いた
初号機 (2020秋)



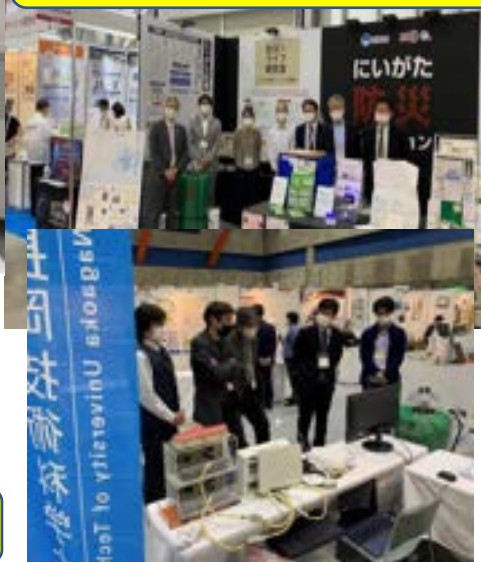
ブレーカー実験キットの
効果の確認 (効果あり)

長岡市水澤電機、ふるさと未来創造堂と協働しキットの設計高度化を実施

長岡市イノベーション加速化補助金を活用した試作機 (2021夏)



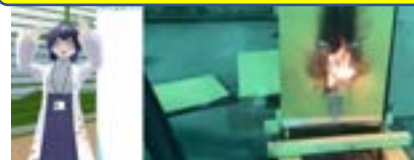
新潟県と協働し防災産業クラスター形成実施



出前授業：長岡市、見附市で6校実施。キットの改良を実施



アバターを用いたソフト教材の開発・導入



改良を施したデモ機 (2022.2完成)



防災教育チャレンジプラン
防災教育特別賞受賞 (2022.2)



防災産業クラスターの完成と船山(株)、柏崎ユーエステック(株)による商品化



商品完成

青葉台中学校区 防災学習（2024.9/1）

- 台風10号接近に伴い、地域・学校合同防災訓練から、青葉台中学校区の小中学生への防災学習に目的を変更して実施
- 主な感想「ブレーカに初めて触った、結構固い」「ブレーカを落とさないで火災になる」「災害はいつおこるか分からない、日ごろの準備が大切」

■ 概要

日時：9月1日(日) 9:30-12:00

場所：青葉台中、青葉台小、
宮本小、大積小

参加人数：

青葉台中 1,2,3年生 160人

青葉台小 5,6年生 102人

宮本小 全生徒 46人

大積小 全生徒 20人

合計約330人

対応者：

長岡技科大 山口研究室 他

船山（株） 合計20名

■ 防災学習の様子（青葉台中）



①ビデオ上映により
地震災害の概要
通電火災の危険性
を学習

②ブレーカキットで
感震ブレーカ動作
ブレーカの操作
を体験



■ 防災学習の様子



■ 小中学生の主な感想

- ・ブレーカに初めて触った
- ・ブレーカは結構固い
- ・ブレーカがどこにあるか調べてみる
- ・能登半島地震のことをもっと知りたい
- ・ブレーカを落とさないと火災になることがわかった
- ・焦って逃げずにブレーカを切るよう気を付ける
- ・災害はいつどこでおこるか分からないため日ごろの準備が大切と感じた

新潟県防災リーダーキャリアアップ講座 2024.12.1

- 県が育成する防災リーダーのフォローアップ研修として標記講座が開催された
- ブレーカーキットを用いて、通電火災の原因や感震ブレーカーの動作を実演

■ 概要

日時：12月1日（日）13:00-16:00
場所：長岡震災アーカイブセンターきおくみらい
主催：新潟県防災局防災企画課
運営：中越防災安全推進機構
人数：新潟県の防災士 24名
参加：吉澤、石川

■ 主な内容

- ・中越防が能登半島地震災害支援活動報告やエピソード発見WS、意見交換を実施
- ・新潟県防災局から技大に依頼を受け「ブレーカーキット」を用いて、通電火災の原因や感震ブレーカーの動作を実演
⇒感震ブレーカーの種類、コスト、取付方法などの質問あり
⇒消防課予防係の方から2月実演の依頼有



ブレーカーキット実演の様子



- ・新潟市西区の液状化に対応したボランティアセンター運営側の苦労話を紹介
- ・能登災害支援で女性部が「足湯ボランティア」を通して、被災者の本音エピソードを紹介

令和7年度第2回 新潟県住宅防火対策推進会議@県庁

■感震ブレーカーの普及について、様々な意見が交わされた

例) 阪神淡路大震災後、ガスメーターに感震機能が付与。電気メーターも同様だと良いのでは

■ 概要

日時：10月6日 13:30-15:00

場所：新潟県庁 2階西回廊大会議室

参加団体：消防本部、関係機関13団体

新潟県 防災局、福祉保健部、土木部都市局

オブザーバ：長岡技科大、感震ブレーカー

普及研究会、日本配線システム工業会

※長岡技科大客員教員として、吉澤フェロー、石川が参加

■ 概要

- 以下の内容について報告、意見交換を実施
 - a. 新潟県内の火災発生状況
 - b. 住宅防火意識の普及啓発活動
 - c. 感震ブレーカーの普及促進
- 感震ブレーカーの普及促進の具体例として、9/26BSN放映の動画紹介。また、ブレーカーキットによる実演を実施。

■ 当日の様子



全体風景



リンテック21
三橋 さま



日東工業
野塚 さま



・住宅用太陽光発電、蓄電装置が設置されている家では、どのような動作になるのか 等電力会社に関わる質問あり

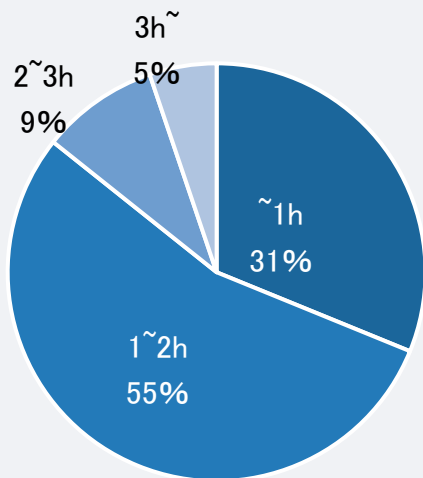
防災ワクチンの具現化

② ブラックアウト大作戦

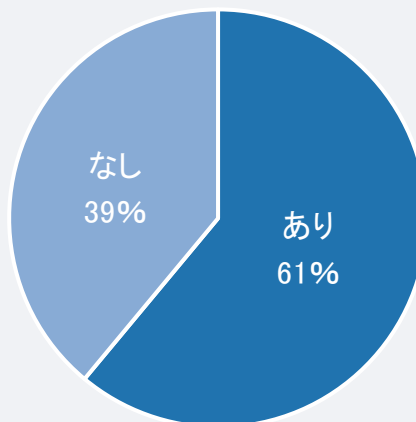
- 災害発生時の家庭での停電体験プログラムとして「ブラックアウト大作戦」を実施。
- 参加者自ら、家庭のブレーカーを落として1~2時間の停電を体験。停電中に食事を摂ること、停電中の写真を取ることを必須とするのみ。参加後にアンケート回答と写真の提出。
- 2023年の試験実施を経て、2024年に長岡市と共催で実施。67名が参加。2025年には新潟県と共催し、全国から172名が事前登録し77名が参加との報告。



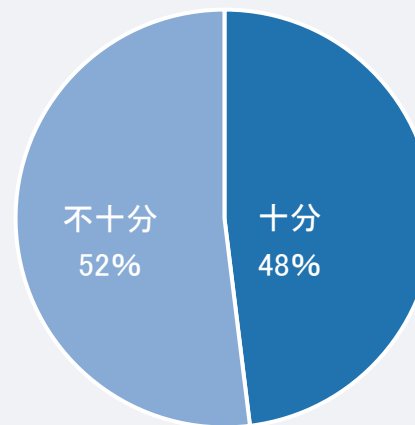
事後アンケート結果（2025年度）



体験時間 (n=77)



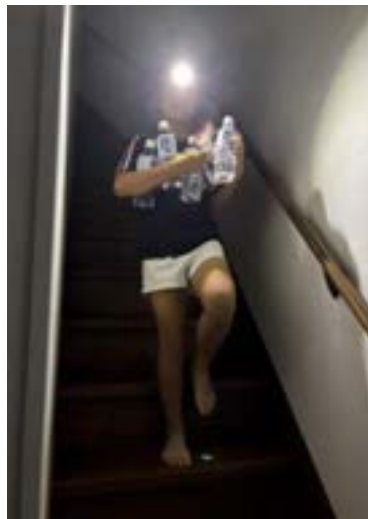
困ったこと (n=77)



物資の備え (n=77)

短時間の体験でも「備えの課題」に気づくきっかけに

フォトギャラリー



※主催者に著作権を譲渡頂いた写真を掲載

防災ワクチンの具現化

③ 一枚の写真ワークショップ (WS)

- 一枚の写真などの限られた情報を提示して、話し合いにより起きた事象を読み解き、役になりきって物語を記述しながら考えていく新たなWS手法。
- 事象発生前後のシナリオ作成、登場人物を軸にした物語記述、参加者に役を与えてのロールプレイの3ステップで構成される。
- 各所で実施した結果から、災害の自分ごと化、周囲と協力し合う意識の醸成など非認知能力6項目すべての向上を確認。参加者アンケートでも高い評価。



ぼうさいこくたい／にいがた防災産業展@朱鷺メッセ（2025.9.6-7）

■防災ワクチン®一枚の写真WS

- 上村研究室藤田さんの司会でWS実施
- アルビレックス新潟チアガール3名を含む合計28名が参加
- 一枚の写真から、その登場人物になりきって、意見を交わすことで、災害を自分事として捉える意識が高まった印象



「一枚の写真」ワークショップの効果

このワークショップでは、未経験や想定外の災害にも対応することを目的に、以下2つの能力の向上と見える化を実現しています。

認知能力

災害対応に必要な
知識・技術力



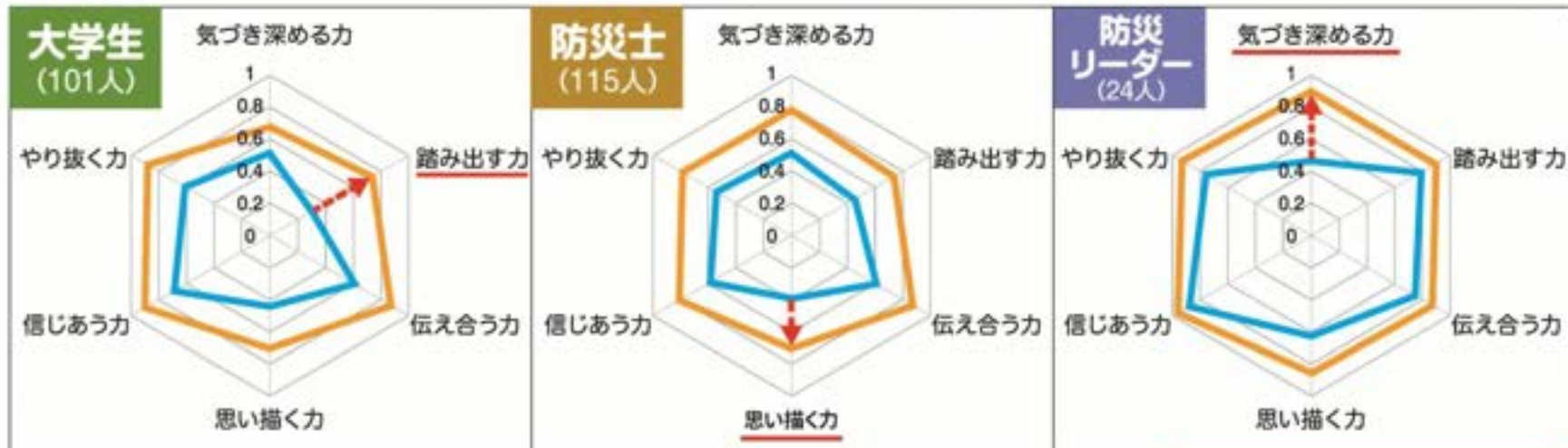
非認知能力

限られた情報の中で、その場に
居合わせた人々と協力して最
善策を定め、行動を起こす力



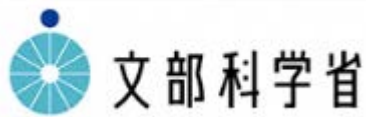
対象者別 非認知能力のWS前後の変化

参加者による自己評価アンケートの結果、「気づきを深める力」「伝え合う力」「踏み出す力」「思い描く力」「信じ合う力」「やり抜く力」の全ての項目で明らかな向上が見られました。



→ 能力向上 — WS前 — WS後

令和8年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 表彰式



長岡技科大との共同研究成果「防災ワクチン®の概念に立脚した教材と研修の普及啓発」が、科学技術賞 理解増進部門を受賞

■ 概要

日時：2026年4月15日（水） 12:10-12:40

場所：文部科学省 3階 講堂

出席者：

福田かおる 文部科学大臣政務官

増子 宏 事務次官

柿田 恭良 文部科学審議官

淵上 孝 研究振興局長

山之内 裕哉 振興企画課長

受賞者：

長岡技科大 上村教授、山口教授（欠）

渡利准教授、アデリン助教

東京電力HD 吉澤フェロー

■ 主な内容

表彰式では、科学技術賞（開発部門、研究部門、技術部門、理解増進部門）、若手科学者賞、研究支援賞（研究開発マネジメント部門、高度技術支援部門）の7部門の代表者が表彰状を受領

■ 当日の様子



受賞者代表挨拶



◆表彰式の様子



福田大臣政務官挨拶



受賞者代表挨拶：川筋 孝氏



開発部門：川筋 孝氏 塩野義製薬（株）
創薬研究本部 主席研究員



研究部門：佐藤 いまり氏 情報・システム研究
機構国立情報学研究所 教授



技術部門：和田 貴志氏 旭光電機（株）
本社 代表取締役社長



理解増進部門：青山 潤氏 東京大学大気
海洋研究所 教授



若手科学者賞：小川 亜希子氏 東北大学
大学院薬学研究科 准教授

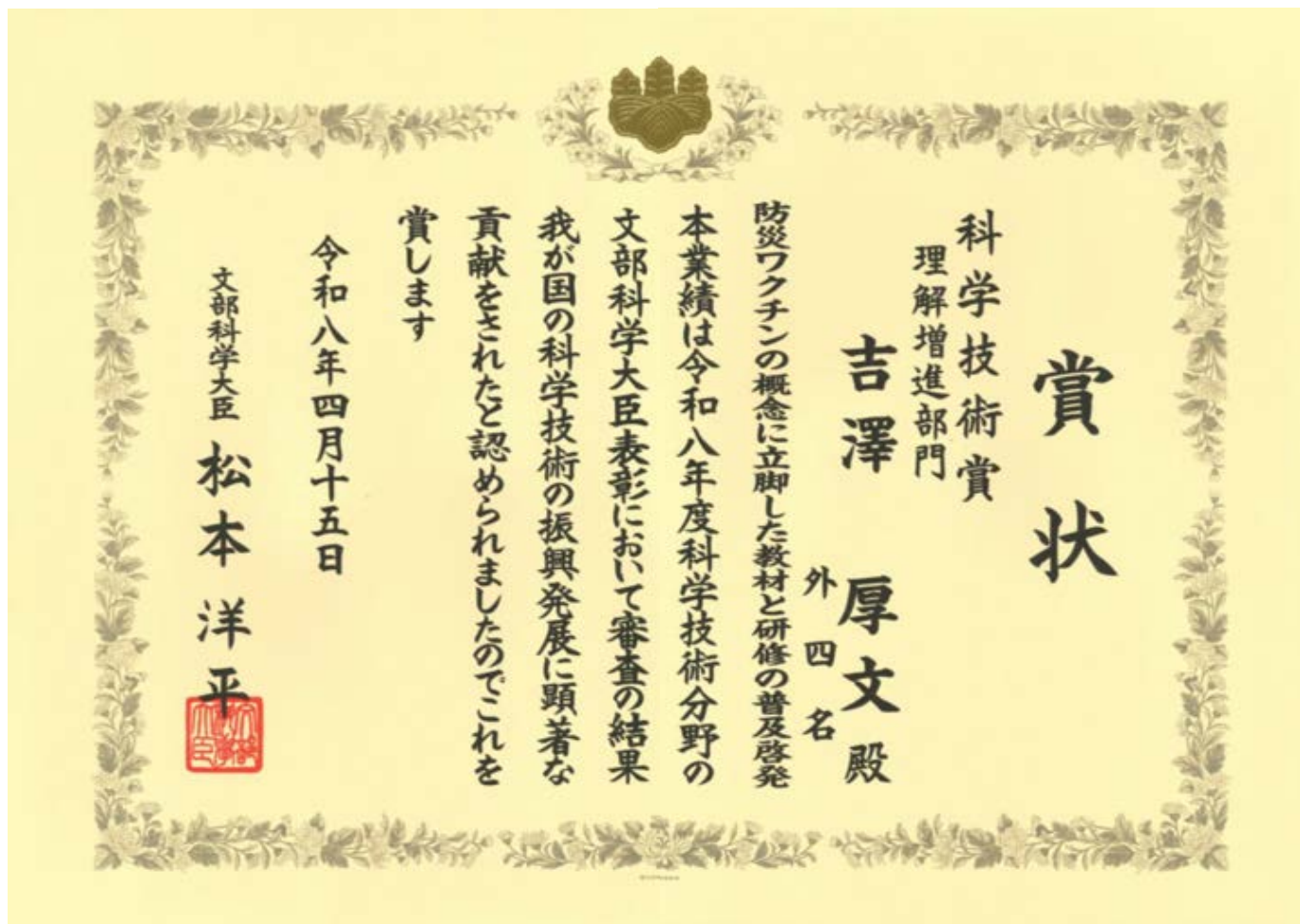


研究開発マネジメント部門：村木 倫子氏
大阪大学経営企画オフィス 教授



高度技術支援部門：豊岡 公德氏 理化学
研究所環境資源科学センター 上級技師

◆表彰状 と 記念メダル



新潟県殿のプレス発表（2026年5月1日（金））

新潟県報道資料



令和8年5月1日
産業労働部創業・イノベーション推進課

にいがた防災ステーションを活用した取組の受賞について

産学官連携のプラットフォーム「にいがた防災ステーション」（以下「防災 ST」という。）を活用して商品化へ社会実装に繋がった『ウォーターチェンジャー®』や『ブレーカーキット』の取組が評価され、日本オープンイノベーション大賞並びに文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞しました。

記

1 受賞名・受賞商品

時期	賞名	受賞商品・内容
RR. 2	日本オープンイノベーション大賞（内閣府）選考委員会特別賞	産学官連携によるウォーターチェンジャー®等の社会実装プロセス
RR. 4	文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）	防災ST®の概念に立脚した教材（ブレーカーキット）と研修の普及啓発

○ウォーターチェンジャー®

- ・微生物の力で生活用水を再利用できる水再生装置
- ・生物処理を導入することでフィルター交換が不要（長岡技術科学大学等の研究をユニトライク社が商品化）



○ブレーカーキット

- ・実物のブレーカーを使って「水害」「地震」による停電・通電火災の仕組みを体験的に学べる教育キット（長岡技術科学大学等の研究を柏崎ユーステック社が製造し、船山社が販売）



2 防災 ST との連携経緯

- ・新潟県と長岡技術科学大学において、令和3年1月21日に「防災・減災に関する包括連携協定」を締結
- ・連携事項の『防災及び減災に関する地域産業の振興』として、同大学が進める研究を県内企業により製品化するため、「防災 ST」と連携し企業マッチングを実施
- ・首都圏展示会・ぼうさいこくたい（防災 ST ブース）での商品展示 など

（防災 ST について）

防災関連の企業や大学等が参画する産学官連携のプラットフォームで、商品開発をはじめ、見本市出展などによる販路開拓や情報発信を通じて、新たなビジネスの創出と関連産業の集積を促進

公式 HP <https://niigatabousai.jp/>



3 受賞内容等の詳細

- 日本オープンイノベーション大賞 選考委員会特別賞受賞
https://www.nangoakaut.ac.jp/news/center/20260210_4476.html
- 文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）受賞
https://www.nangoakaut.ac.jp/news/center/20260407_4546.html

【問い合わせ先】

産業労働部創業・イノベーション推進課 藤田
TEL : 025-280-5242（直通）

文部科学大臣表彰を受け、新潟県産業労働部殿もプレスリリースを実施

にいがた防災ステーションの活動の一環として、

- 第8回日本オープンイノベーション大賞8選考委員会特別賞の受賞
- 文部科学大臣表彰（科学技術賞理解増進部門）

について言及いただいた。

[にいがた防災ステーションを活用した取組の受賞について - 新潟県ホームページ](#)

新潟県殿のプレス発表（2026年5月15日（金））


文部科学大臣表彰を受け、新潟県広報 広聴課殿もプレスリリースを実施

- にいがた防災ステーションから生まれた「ブレイカーキット」を用いた防災教育
- 一枚の写真ワークショップや、ブックアウト大作戦による防災ワクチン研修

について言及いただいた。

[防災教育「防災ワクチン」が文部科学大臣表彰を受賞 産学官連携プラットフォーム「にいがた防災ステーション」から生まれた「ブレイカーキット」などの取組が評価 | 新潟県](#)

NEWS LETTER


新潟県 PR 事務局

報道関係各位

防災教育「防災ワクチン」が文部科学大臣表彰を受賞 産学官連携プラットフォーム「にいがた防災ステーション」から生まれた 「ブレイカーキット」などの取組が評価

～「知る防災」から「自分ごとの防災」へ。子どもたちが自分で判断する力を育てる～

長岡技術科学大学（新潟県長岡市）等が中心となって進めてきたレジリエンス向上を目指した「防災ワクチン」の取組が、先月4月、令和8年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）を受賞しました。

今回の受賞は、災害を“自分ごと”として捉えるため、自らの判断で危険に気づき、どう行動すべきか考える力を育むことを目指した「防災ワクチン」の概念を基盤に、研修手法や教材を開発し、学校や家庭、地域へと社会実装を進めてきた3つの取組が評価されたものです。

その取組の一つとして通電火災の仕組みを体験的に学べる「ブレイカーキット」は、新潟県の産学官連携プラットフォーム「にいがた防災ステーション」を活用し、大学の研究成果を企業とのマッチングによって製品化へとつなげた防災学習キットであり、現在は子ども向け防災学習をはじめ幅広い場面で活用されているものです。



■文部科学大臣表彰を受賞した「防災ワクチン」とは？

災害への対応力を“事前に高める”ための考え方。薬のように問題を後から解決するのではなく、ワクチンになぞらえた考え方を防災に取り入れ、知識中心の防災から、当事者意識と主体性を育む「主体」防災への転換を目指しています。

■なぜ今、防災学習が必要なのか

自然災害が頻発する中、防災教育の重要性はこれまで以上に高まっています。一方で、災害について知識として学ぶだけでは、実際の現場でとっさに判断し、行動することは簡単ではありません。とくに家庭や学校、通学路など、子どもが日常的に過ごす場所には、災害時に初めて見えてくる危険もあります。「防災ワクチン」は、こうした課題に対し、疑似体験を通じて災害を身近に捉え、自ら考え、備えや行動を想像する力を育むことを目指してきました。災害時に“待つ”のではなく、身の回りの状況から自分で判断する力を養う点が特長です。

■「防災ワクチン」における具体的な3つの取組

「防災ワクチン」では、研修手法・教材を体系的に開発し、学校・自治体・企業と連携した産学官協働による社会実装を進めてきました。主な取組は次の3つです。

新潟県殿のプレス発表（2026年5月15日（金））

1. 通電火災の仕組みを体験的に学べる「ブレーカーキット」の開発・商品化

実物のブレーカーを使って、「水害」と「地震」による停電・通電火災の仕組みを体験的に学べる教育キットです。2階建ての模擬住宅に電気を流し、災害時の電気トラブルを再現しながら、ブレーカーを操作して安全に電気を復旧する方法や、通電火災発生メカニズムを学ぶことができます。産学官連携のプラットフォーム「[いいがた防災ステーション](#)」から生まれた商品で、長岡技術科学大学と東京電力が開発した教材をもとに、柏崎ユーステック株式会社が製造、船山株式会社が販売しています。キットは長岡市や見附市の小中学校での出前授業を通じて改良を重ね、2021年度には内閣府が支援する「防災教育チャレンジプラン」で特別賞を獲得し、地元の支援を得て商品化に成功しました。なお、ブレーカーキットを活用した防災教育は、直近6年間で県内14回実施されています。



ブレーカーキット

2. 一枚の写真から災害リスクを読み解くワークショップ手法の考案

実際に起きた災害現場の写真をもとに、例えば被害者に自分が必要なり、「どこに危険があるか」「災害時に何が起きるか」を考えるワークショップ手法です。昨年9月7日に新潟市にて実施された「ぼうさいくたい」において、多くの人が集まり一枚の写真を元に災害リスクについて語り合いました。直近5年間で14回実施され、そのうち9回は県内で行われています。

3. 家庭で停電を疑似体験する「ブラックアウト大作戦」の実施

停電時の生活を家庭で疑似体験することで、普段は気づきにくい不便さや備えの必要性を、親子で実感しながら学ぶ取組です。家庭内での会話や役割分担の見直しにもつながり、学校での学びを家庭の行動変容へと広げることが期待されます。実際に参加した子どもからは「部屋の中が真っくらになりとても怖かった。電気の大切さを知った」という声がありました。2024年度から開始し、毎年10月に実施しています。



こうした取組を通じ、子どもから大人までが災害を自分ごととして捉え、適時・的確に行動する力が育まれます。また、通電火災の防止や停電への備えの向上が図られ、地域のレジリエンス強化と国民の安全・安心の確保への寄与が期待されています。

【今後の予定】※取材が可能です

◆ブレーカーキットの説明及びラジオ作成を体験しながら防災を学ぶイベント

・日時：6月20日(土)9時～11時

・場所：あてま高原リゾート・ベルナティオ・フォーラムセンター（新潟県十日町市珠川）

<https://www.belnatio.com/activity/>

・対象：小学4～中学3年生の児童とその保護者（近日中に募集開始予定）

・内容：ブレーカーキットを活用し、地震発生時の通電火災を防ぐための対策や、洪水災害時に電気を早期復旧させるための節電対応について、子どもたちが実際に体験しながら学びます。また、停電時にはテレビや携帯電話が使用できなくなることから、災害関連情報をどのように取得するかが重要となります。本プログラムでは、実際にラジオを製作し、防災情報を入手する手段について理解を深めていただきます。

◆「防災ワクチンフォーラム」開催（予定）

・日時：9月18日(金)

・場所：ホテルニューオータニ長岡 NC ホール（新潟県長岡市台町2丁目8-35）

<https://www.nagaoka-newotani.co.jp/banquet/nchall.html>

・内容：「防災ワクチン」の考え方や、社会実装の手法などについて、「ブレーカーキット」のデモンストレーション



長岡市内中学校での授業の様子

コンセプトの詳細 https://bosaijapan.jp/app/uploads/2024/03/2021_04_seika.pdf

■「いいがた防災ステーション」とは？

新潟県は、過去に中越地震や豪雨、大雪など、度重なる災害を経験し、防災・減災に関する技術やノウハウ、人材などの資源が地域に蓄積されており、2020年、これらの資源を結び付け、産学官が一体となって防災関連の商品やサービスを生み出す「防災産業クラスター」形成の取組を開始しました。

その中核となるのが、産学官連携のプラットフォーム「いいがた防災ステーション」です。大学の研究シーズ、企業の技術力、現場ニーズをつなぎ、商品・技術開発や実証、販路開拓を後押ししています。現在、県内外あわせて245の企業・団体（県内166、県外79）が参画しており、これまでに14のプロジェクトが立ち上がり、研究開発や商品化に向けた取組が進められています。



■連携経緯

・新潟県と長岡技術科学大学において、令和3年1月21日に「防災・減災に関する包括連携協定」を締結

・連携事項の「防災及び減災に関する地域産業の振興」として、同大学が進める研究や技術を県内企業により製品化するため、「いいがた防災ステーション」と連携し、プロモーションや企業マッチングを実施

■受賞概要

防災ワクチンの概念に立脚した教材と研修の普及啓発

受賞名：令和8年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）

受賞対象：防災ワクチンの概念に立脚した教材と研修の普及啓発

発表日：4月7日（火）

表彰式：4月15日（水）

目的：災害を「他人ごと」と捉える社会課題に対し、知識中心の防災から当事者意識と主体性を育む「主体」防災への転換を目指す。

効果：子どもから大人までが災害を自分ごととして捉え、適時・的確に行動する力が育まれるとともに、通電火災の防止や停電への備えの向上が図られ、地域のレジリエンス強化と国民の安全・安心の確保に寄与している。

<本件に関するお問い合わせ >

新潟県 PR 事務局（株式会社プラップジャパン内） 河野・山田

MAIL: niigata-pr@prap.co.jp TEL: 070-2478-7099（河野）080-9815-9168（山田）

◆2026年4月10日（金）TBS NEWS DIG



BSN防災減災プロジェクトを監修する長岡技術科学大学の災害疑似体験で“免疫力”を育む『防災ワクチン』活動に文部科学大臣表彰



2026年4月10日(金) 15:58

BSNの防災・減災プロジェクトを監修する国立大学法人長岡技術科学大学の『地域防災実践研究センター(新潟県長岡市)』がすすめる“防災ワクチン”の活動が、2026年度の文部科学大臣表彰を受賞しました。

文部科学省は毎年、科学技術分野での顕著な功績を講じる『文部科学大臣表彰』を行っています。長岡技術科学大学は今年度、地域における科学技術知識の普及や啓発に寄与したとして「科学技術賞」を受賞したものです。



長岡技術科学大学 外観

長岡技科大が「地域のレジリエンス(回復する力)の向上」を目指して続けている、地域防災実践研究センターと東京電力ホールディングスと共同で開発した『防災ワクチン』の活動が“理解増進部門”として高く評価されたということです。

次ページ 『防災ワクチン』って？



◆2026年4月10日（金）TBS NEWS DIG



『防災ワクチン』って？

長岡技術科学大学の地域防災実践研究センターと東京電力ホールディングスがすすめてきた『防災ワクチン』は、“弱毒化した災害”を疑似体験することで住民の災害対応力や主体性を“免疫力”として高め、災害当事者としての防災能力を育むもので、これまで主に以下の3点で、地域自治体や企業・学校と連携した取り組みを進めてきました。



写真からリスクを読み解くワークショップの様子

- 「1枚の写真」から『災害リスクを読み解く』ワークショップ
- 停電復旧時に発生する『通電火災』の仕組みを体験的に学ぶ『ブレーカーキット』
- 自宅で停電を“疑似体験”する『ブラックアウト大作戦』の実施

前ページ 放送局とも連携して“ワクチン拡散”



放送局とも連携して“ワクチン拡散”

また長岡技術科学大学技術開発センターは、地元放送局のBSN新潟放送がすすめる『防災・減災プロジェクト』の監修のほか、毎年開催されるイベントのキッズフェスティバルで実際に『ブレーカーキット体験』を行ったり『ブラックアウト大作戦』への参加を呼び掛けたりする、などの連携もしています。



BSNキッズフェスティバルでの『ブレーカーキット体験』の様子

今回の受賞について東京電力ホールディングスのフェローでもある長岡技術科学大学技術開発センターの古澤厚文客員教授は、「素晴らしい賞を頂戴し、感謝申し上げます。引き続き『知の実践』を通じた研究開発に取り組み、新潟県が提唱する『防災産業クラスター形成事業』への貢献を回ってまいります」とコメントしています。

2026年度の文部科学大臣表彰の表彰式は、4月15日に文部科学省の講堂で松本洋平文部科学大臣も出席して開かれる予定だということです。

まとめ：地域防災実践研究センター

■にいがた防災ステーションでの活動を通じ，産官学の連携によって，多くの研究成果の社会実装を実現しています

■地域の産業と連携し，全国への展開を目指して参ります

今後もご支援よろしくお願いいたします